

アジャイルなふるまいを体感する ワークショップ実践ガイド (1チーム版)

IPA 独立行政法人
情報処理推進機構

※本コンテンツに掲載されている製品またはサービス名などの名称は、各社の商標または登録商標です。
製品、サービス名などには、必ずしも商標表示（(R)、TM）を付記していません。

はじめに

**本資料は、
「オンラインでアジャイルなふるまいを体感するワークショップ」を
自分のチームで実践しようとしている方に向けたガイドになります。**

**ぜひ、このガイドを読んで、少しでも多くの方にアジャイルなふるまいを
体感いただき、アジャイルなふるまいを実践できる組織が増えることを
願っております。**

2022年3月 アジャイルWG一同

資料構成

〔オンライン版〕 アジャイルなふるまいを体感するWS実践ガイド※本資料

01_進行スライド_アジャイル体感WS（1チーム版）.pptx

02_ファシリテータ進行ガイド.xlsx

＜参考資料＞

03_Miro作業環境テンプレ.pdf

04_Miro作業環境の準備マニュアル.pdf

05_インプットトーク.pdf

06_トランスフォーメーションに対応するためのパターン・ランゲージ.pdf

07_Miro代替作業環境（Google Spread Sheet）の準備マニュアル.pdf

目次

0.概要編

ワークショップの目指すところは？

1.準備編

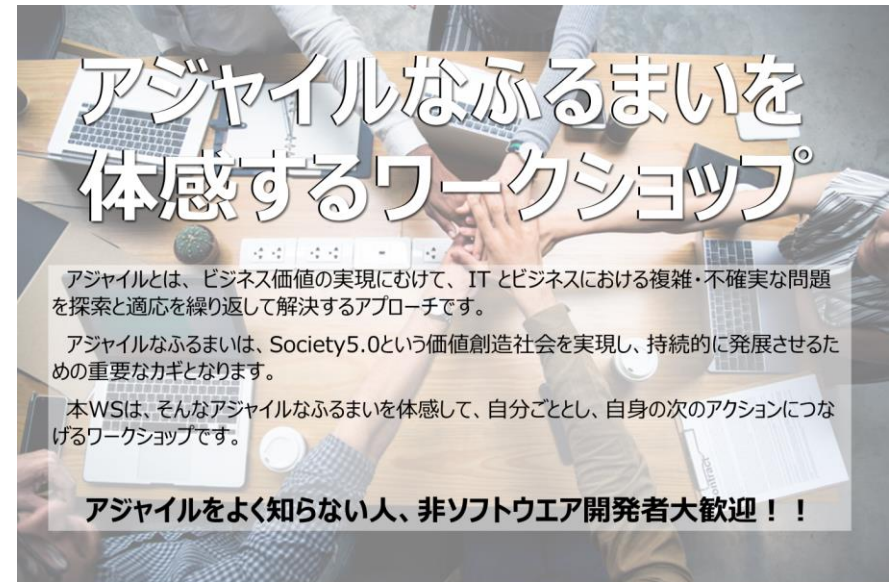
何を準備するの？

2.当日編

ワークショップの流れは？
何に注意すればよいの？

3.後日編

ふりかえりはどうして重要？



アジャイルなふるまいを 体感するワークショップ

アジャイルとは、ビジネス価値の実現にむけて、IT とビジネスにおける複雑・不確実な問題を探索と適応を繰り返して解決するアプローチです。

アジャイルなふるまいは、Society5.0という価値創造社会を実現し、持続的に発展させるための重要なカギとなります。

本WSは、そんなアジャイルなふるまいを体感して、自分ごととし、自身の次のアクションにつなげるワークショップです。

アジャイルをよく知らない人、非ソフトウェア開発者大歓迎！！

0.概要編 ワークショップの目指すところは？

ワークショップ（以下WS）を設計する際は、最低限以下の項目について明文化する必要があります。

- **目的**（何のためにこのWSを開催するのか？）
- **目標**（このWSの到達地点をどこにするか？）
- **対象**（このWSにはどのような人が参加するのか？）
- **カリキュラム**（どのような流れでWSを進めるのが効果的か？）

0.概要編 ワークショップの目指すところは？

目的

何のためにこのWSを開催するのか？

⇒自分のチームのために
アジャイルを体感できる場をつくるため。

0.概要編 ワークショップの目指すところは？

目標

このWSの到達地点をどこにするか？

⇒アジャイルなふるまいを体感することで、自分ゴトとして捉え
次のアクションにつながるきっかけを見つける。

0.概要編 ワークショップの目指すところは？

対象

このWSにはどのような人が参加するのか？

⇒自分のチームメンバー

0.概要編 ワークショップの目指すところは？

カリキュラム

どのような流れでWSを進めるのが効果的か？

開催挨拶

- ① 今日の目標とグラドルール
- ② チェックイン
- ③ インプットトーク（アジャイルとは？）
- ④ パターンを選ぼう！（ゴール設定）

休憩

- ⑤ アジャイル体感ワーク
- ⑥ 全体ふりかえり
- ⑦ チェックアウト（アクション宣言）

アンケート回答



はじめに目標とルールを示す。



チェックイン・アウトを設ける。



休憩は60～90分に1回設ける。



ふりかえりの時間は必須。

1.準備編 オフラインとオンラインの違い

心構え

オフライン（リアルな場）でワークショップをする場合との一番大きな違いは、参加者の反応やグループワークの状況が掴みにくいことです。ここでは、オンラインでワークショップをはじめめる上でのポイントを記載します。

- ・最低限のお作法を伝える（事前告知＆当日）
- ・事前に動作確認をお願いする（動作に不安がある人向け）

オンラインワークショップに参加するにあたって

このたびは、ご参加ありがとうございます。
スムーズにワークショップを進めるために
以下を意識して参加いただくと助かります。



- ・ヘッドセットやマイク付きイヤホンで参加する。（推奨）
- ・ビデオと音声は基本ONにする。（動画視聴中はOFFで可）
- ・相槌や首振り積極的に大きなリアクションで。
また、サインやチャットを活用してもOK。
- ・途中休憩10分ありますが、適宜休憩をとっていただいてもかまいません。

1.準備編 何を準備するの？

資料

- 01_進行スライド_アジャイル体感WS（1チーム版）.pptx
- 02_ファシリテータ進行ガイド.xlsx
- 03_Miro作業環境テンプレ.pdf
- 04_Miro作業環境の準備マニュアル.pdf
- 05_インプットトーク.pdf
- 06_トランスフォーメーションに対応するためのパターン・ランゲージ.pdf
- 07_Miro代替作業環境（Google Spread Sheet）の準備マニュアル.pdf

1.準備編 何を準備するの？

資料

01_進行スライド_アジャイル体感WS（1チーム版）.pptx

当日表示する投影資料です。

IPA

2. チェックイン

お名前と「今後、どう働くか」についてお話しください。
お話し内容はmiroのチェックインframe内に記録してください。

今の気持ちと期待は？

zoom
必ずミュート解除、ビデオオンにしてください。

10分

5 All Rights Reserved Copyright© IPA 2021

1.準備編 何を準備するの？

資料

02_ファシリテータ進行ガイド.xlsx

当日の進行をするための資料です。

アジャイルWS ファシリテータガイド (トーキングスクリプトおよびアレンジポイント)				2022.01.25時点版	
Page	進行スライド	所要時間	タイムテーブル (D6に開始時刻を入力)		アドリブポイント
			開始時刻	終了時刻	
0		2	14:58	15:00	<p>トーキングスクリプト</p> <p>ワークショップを開催する前に、オンラインワークショップに参加するにあたって意識していただきたいことをご連絡いたします。</p> <p>ワークショップを行っている最中に相手の声が聞き取りづらいと、ワークショップに反応が鈍ります。</p> <p>相手の発言が聞き取れないように、可能であれば別方向にマイクを向かい換えていただくをお願いします。</p> <p>ディスカッションをしている最中に、ビデオをオフして相手の表情が見えなくなると、伝わっていないの、聞き取れない、相手の発言が聞き取れない、など、相手の気持ちや理解度といった情報を得られず、相手が何を話しているのか、何を伝えようとしているのか、など、相手の気持ちや理解度といった情報を得られず、相手が何を話しているのか、何を伝えようとしているのか、などを把握することが難しくなります。</p> <p>なので、可能であればビデオはオンにして、相手が何を話しているのか、何を伝えようとしているのか、などを把握することが難しくならないように、事前に確認させていただきます。</p> <p>(録音が必要なら) 事前に確認させていただきますのでご了承ください。</p>
1		1	15:00	15:01	<p>アドリブポイント</p> <p>それではお時間になりましたので【オンラインでアジャイルなふるまいを体験するワークショップ】を開始いたします。</p> <p>「アジャイルとは何か?」という質問の中でアジャイルな仕事とは「アジャイルなふるまいとは?」といった問いに対して、前半は講義、後半はワークショップを行うことで知識と経験を元々体感していただく会となります。</p> <p>皆さまからのご意見は遠慮なくZoomのチャットに書いていただくか、終了後のアンケートにご記入いただくなど、ご協力をよろしくお願いいたします。ぜひ楽しんでご参加ください。</p>
2		2	15:01	15:03	<p>アドリブポイント</p> <p>はじめに講師の紹介ということで、本日のファシリテータは、〇〇〇の会社(部署)の〇〇〇〇が務めさせていただきます。よろしくお願いします。</p> <p>それは、本日の進め方について簡単に説明します。まずは今日の目標とゴール(ゴール)を確認し、最初と最後にチェックインとチェックアウトを行います。「アジャイルとは?」についてのインプットトークとトライトの講義を行い、その後、いよいよアジャイルなふるまいを行います。最後に全体ふりかえりを行います。</p> <p>ちなみにチェックアウトの最後で時間が残り15分程度、アフタートークという形で口頭やチャットで自由に質問していただく時間を設けています。お時間のある方は残っていたら、引き続きご参加いただければ幸いです。</p>
3		3	15:03	15:06	<p>アドリブポイント</p> <p>まず今日の目標についてですが、【アジャイルなふるまいを体験して自分ごと化して次のアクションにつなげる】です。「アジャイルとはなんだろうか?」という基礎知識の理解のあとに、実際に体験してみるということをおこなっていただきます。</p> <p>次に、今日のゴールは、コーチングの世界によく言われる【よく聞いてよく笑ってよく止める】です。「なるほど、その意見いいね!」(Yes, and) というようなポジティブなフィードバックをすまよう意識していただければと思います。そうすることで「Not but」のように発言する機会をなくすようなことが実現できるからです。</p> <p>あととはよく聞く「あー、あー」が聞き取れないので、事前に確認させていただきます。</p>
					<p>アドリブポイント</p> <p>アジャイルなふるまいというの何ぞや?という疑問は解消していただくための準備をさせていただきます。</p> <p>まずゴールを確認させていただきます。</p> <p>アジャイルなふるまいというものは重要視されています。</p> <p>オンラインでの会議というものを意識してもらえよう説明してください。</p> <p>ワークショップは参加者全員でやるものです。ボイスタブに、「今日の目標」「アジャイルなふるまいを体験して、自分ごと化して次のアクションにつなげる」「ゴール」をよく聞いて、笑って、笑って止める! (Yes, and...) この場を楽しもう! (Let's enjoy!)</p>

01の進行スライドを掲載しています。表示スライドと同じ行を見ましょう。

タイムテーブルに開始時刻をいれると自動的に進行スライドごとのタイムテーブルが表示されます。

進行スライドごとのトーキングスクリプトとアレンジポイントを記載しています。

1.準備編 何を準備するの？

※03-07は参考資料

資料

03_Miro作業環境テンプレ.pdf

04_Miro作業環境の準備マニュアル.pdf

07_Miro代替作業環境（Google Spread Sheet）の準備マニュアル.pdf

ワークを行うMiroの作業環境をつくるための資料です。
04の準備マニュアルに従って、Miroに03のPDFを貼付して、
ワークの作業環境を準備しましょう。

また、Miroの利用が難しい場合はGoogle Spread Sheetを活用してください。
Google Spread Sheetを活用する場合は、各種資料のMiroと記載されている
ところをGoogle Spread Sheetで置き換えて進行してください。
（資料は基本的にMiroを利用する前提で記載しております）

Miroの操作説明用の動画 [<https://youtu.be/oGYG1J0XT7o>] もあるのでご活用ください。

1.準備編 何を準備するの？

※03-07は参考資料


資料


05_インプットトーク.pdf

- ③インプットトーク（アジャイルとは？）で使用します。
説明用の動画 [<https://youtu.be/mZoa3w7COd4>] もあるのでご活用ください。

アジャイルなふるまいを体感するワークショップ@オンライン

DX時代のリベラルアーツとしての
アジャイルマインド
～IPA ITSS+活用のススメ～

IPA非常勤 研究員（アジャイルWG主査）
株式会社豆蔵 取締役・カンパニーCTO
技術士（情報工学） 羽生田栄一 

1 Hanyuda Eiiti, IPA 

1.準備編 何を準備するの？

※03-07は参考資料

資料

06_トランスフォーメーションに対応するためのパターン・ランゲージ.pdf

- ④ パターンを選ぼう！（ゴール設定）で使用します。
説明用の動画 [<https://youtu.be/TxmnyRJW154>] もあるのでご活用ください。

参加者には、
以下IPAサイトよりアクセスして
事前に読んでいただくことを
お勧めします。



<https://www.ipa.go.jp/files/000082043.pdf>

1.準備編 使用するツールは？

※ツールの詳しい使い方については記載していません。

ツール

Zoom（オンライン会議）

miro（オンラインホワイトボード）

※Google Spread Sheet（Miroが厳しい場合）

オンラインで会議するためのツールとオンラインでワークするためのツールです。
オンラインで会議するためのツールは支障がなければZoom以外でも大丈夫です。

Miro（もしくはGoogle Spread Sheet）に作業環境を準備してください。
それぞれの作業環境の準備については、03,04,07の資料を確認ください。

1.準備編 使用するツールは？

使用ツールの接続確認等は、以下よりご確認ください。

- Zoomのテストミーティング
<https://Zoom.us/test/>
- miroの接続確認用ボード
https://miro.com/app/board/o9J_kp6_XFg=/
- Zoom + miroを使ったオンラインワークショップを快適にするためのポイント
<https://note.com/fullvirtue/n/na8f48a74156a>

WS当日は、参加者の習熟度に合わせて操作に慣れる時間を設けることをお勧めします。

2.当日編 ワークショップの流れは？何に注意すればよいの？

① 今日の目標とグラドルール

WSのはじめに、今日の目標（到達地点）やグラドルールを提示することで、参加者は、より安心してWSに参加することができます。



グラドルールは、事細かく設定せず、どのような気持ちでWSに参加してほしいかを最大3つまでで考えるとよい。

2.当日編 ワークショップの流れは？何に注意すればよいの？

② チェックイン

心と身体を準備するために行います。全員が等しく発言する機会を作り、お互いの状態を聞き合うことで、安心感を高めてWSを始めることができます。



<効果>

- ・話しやすい雰囲気ができる
- ・議論が活発になる

2.当日編 ワークショップの流れは？何に注意すればよいの？

③ インプットトーク（アジャイルとは？）

本ワークに入る前に、基本的な知識を入れてもらうフェーズです。本ガイドでは、説明動画 [<https://youtu.be/mZoa3w7COd4>] を用意していますので、そちらを投影ください。

（ご参考）ITSS+アジャイル領域

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/itssplus.html#section1-4>

2.当日編 ワークショップの流れは？何に注意すればよいの？

④ パターンを選ぼう！（ゴール設定）

アジャイル体感ワークでの**ゴール設定**と『トラパタ』の24パターンからこのWSで**大切にしたいパターン**を選んでもらいます。

本ガイドでは、説明動画 [<https://youtu.be/TxmnyRJW154>] を用意していますので、そちらを投影ください。



はじめに24パターンに目を通す時間を設けてから共有するとよい。

2.当日編 ワークショップの流れは？何に注意すればよいの？

⑤ アジャイル体感ワーク

- ・テーマ（例：働き方も含む理想の仕事場環境）について議論してアウトプットを作成します。
- ・スプリント（①計画②作業③ふりかえり）を3回繰り返します。（進め方は、次ページ通り。）
- ・ふりかえりは、KPTというフレームワークを活用します。



- ・場の活性化をするために、途中でルールを変更したりするとよい。
- ・ふりかえりは、プロセスだけでなくふるまいについてもふりかえるよう促す。
- ・ふりかえり時は、次の計画を立てないように注意する。

【参考】アジャイル体感ワーク

【チーム活動の進め方】

テーマについて議論しアウトプットを作成します。

議論をしながら、理想の仕事場環境を作業場所に作成してください。

画像やレイアウトなどは、Google検索で素材を探して貼ってかまいません。

各スプリント×3回実施します。

- 1) 計画（1回目：4分、2回目以降：3分）このスプリントで実行する内容の計画を立てましょう。
- 2) 実行（1回目：7分、2回目以降：5分）計画に基づき、実行しましょう。
- 3) 他チームレビュー（※今回は省略）

別のグループのゴール設定とスプリントの成果物を確認し、フィードバックをしてください。

1つのフィードバックを1つのsticky noteに書いて貼ってください。

- 4) ふりかえりKPT（1回目：4分、2回目以降：3分）
Keep(続けたいこと) Problem(問題だったこと) Try(改善したいこと)
について、グループ内でふりかえりをしてください。
miro上のふりかえりボードにどんどん書き出してください。
1つの内容を1つのsticky noteに書くようにしてください。

※講師コメント

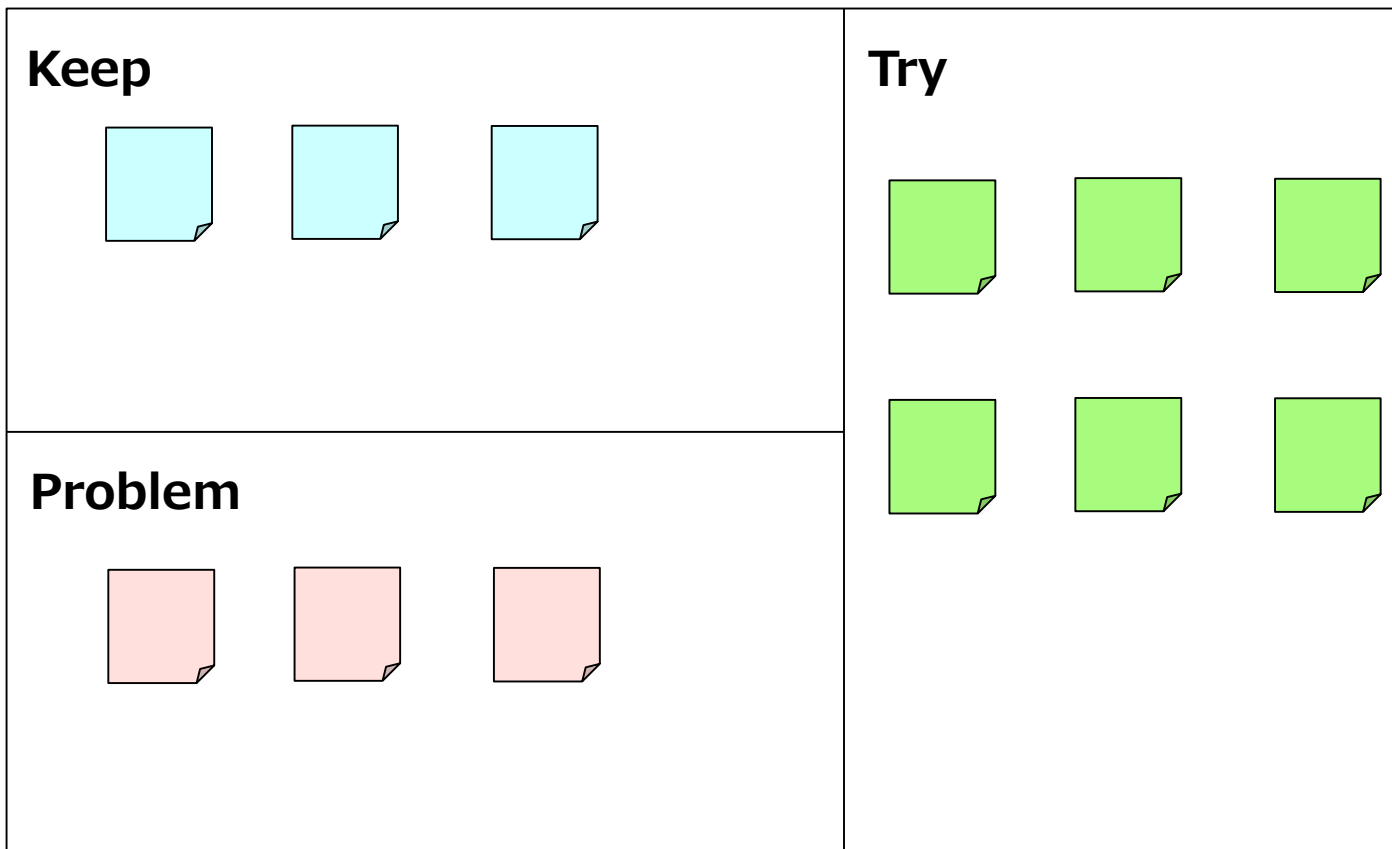
[参考] KPT

ふりかえりのフレームワーク、Keep → Problem → Try の順でふりかえる。

Keep : 良かったこと (今後も続けること)

Problem : 悪かったこと (今後はやめること)

Try : 次に挑戦すること



2.当日編 ワークショップの流れは？何に注意すればよいの？

⑥ 全体ふりかえり

体感ワークの中での行動（アジャイルなふるまい）が『トラパタ』の24のパターンのどれにあてはまるかを考えます。
そうすることで、何気ない行動が実はアジャイルなふるまいになっていることを体感します。



アジャイル開発プロセスではなく、行動（アジャイルなふるまい）に着目するように促す。

2.当日編 ワークショップの流れは？何に注意すればよいの？

⑦ チェックアウト（アクション宣言）

チェックアウトとは、会を終えるにあたって、理解度、納得度、満足度を高めるために行います。

ご自身の活動に対する次へのアクションに対して、どのような行動パターンで挑むか、『トラパタ』の24のパターンから1つ選んで宣言します。



全体で、共有する。

3.後日編 ふりかえりはどうして重要？

アンケート結果を元に、ふりかえりを行います。
体感ワークでも使用したKPTを使ってふりかえります。
ふりかえった結果は、よりよくするための宝となります。
また、このWSの計画、実行、ふりかえりというプロセスがアジャイルな
ふるまいそのものになります。



実施して “楽しかったね” で終わらないようにする。

アジャイルWGメンバー（2021年度）

	氏名(敬称略)	所属
主査	羽生田 栄一	株式会社豆蔵/ 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）
メンバー	川上 誠司	アクセンチュア株式会社
	関 満徳	エクスパッション合同会社
	和田 憲明	富士通株式会社
	渡会 健	株式会社マネージメントソリューションズ
	岡本 宗之	株式会社ITプレナーズジャパン・アジアパシフィック
	松崎 一孝	株式会社ふくおかフィナンシャルグループ
	藤井 崇介	株式会社星野リゾート
オブザーバー	山下 博之	独立行政法人情報処理推進機構（IPA） 社会基盤センター産業プラットフォーム部
	野村 治彦	独立行政法人情報処理推進機構（IPA） デジタル戦略推進部デジタル企画推進グループ
アドバイザー	平鍋 健児	株式会社永和システムマネジメント

事務局：高橋、藤中、横井、下川、鈴木（独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 社会基盤センター人材プラットフォーム部）